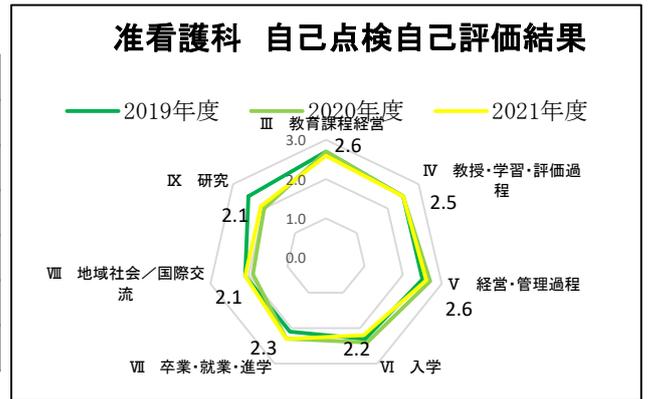


2019・2020・2021年度 自己点検自己評価結果 准看護科

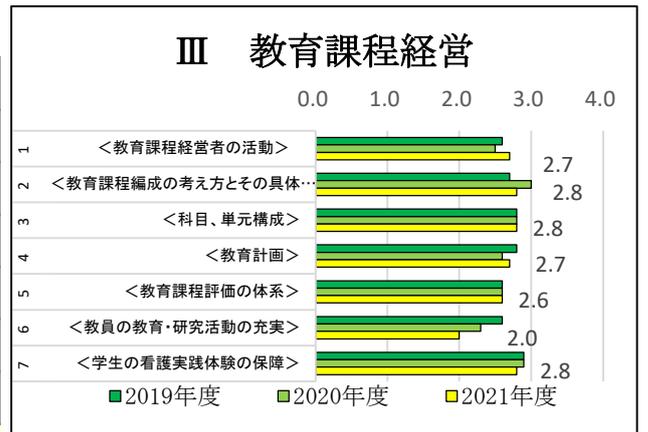
〈評価基準〉 3：当てはまる 2：やや当てはまる 1：当てはまらない

	2019年度	2020年度	2021年度
III 教育課程経営	2.7	2.7	2.6
IV 教授・学習・評価過程	2.5	2.5	2.5
V 経営・管理過程	2.5	2.7	2.6
VI 入学	2.3	2.4	2.2
VII 卒業・就業・進学	2.1	2.3	2.3
VIII 地域社会／国際交流	2.1	1.9	2.1
IX 研究	2.5	2.0	2.1



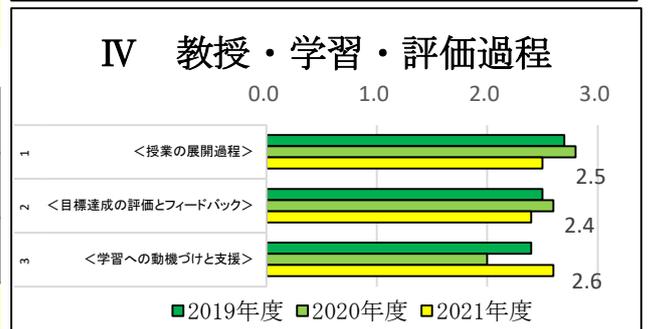
III 教育課程経営

	2019年度	2020年度	2021年度
1 <教育課程経営者の活動>	2.6	2.5	2.7
2 <教育課程編成の考え方とその具体的な構成>	2.7	3.0	2.8
3 <科目、単元構成>	2.8	2.8	2.8
4 <教育計画>	2.8	2.6	2.7
5 <教育課程評価の体系>	2.6	2.6	2.6
6 <教員の教育・研究活動の充実>	2.6	2.3	2.0
7 <学生の看護実践体験の保障>	2.9	2.9	2.8
平均	2.7	2.7	2.6



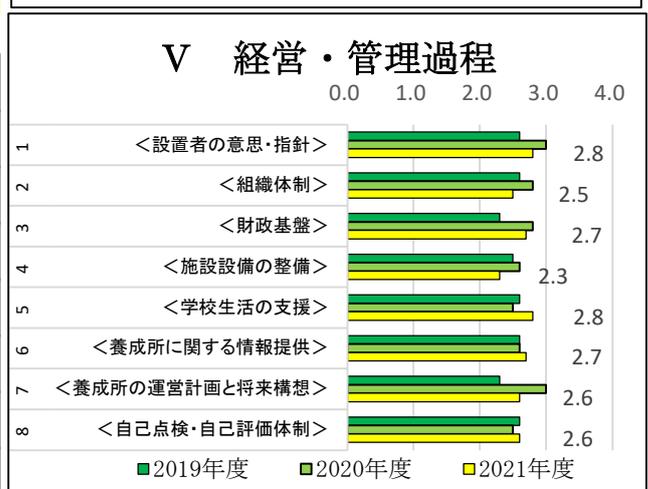
IV 教授・学習・評価過程

	2019年度	2020年度	2021年度
1 <授業の展開過程>	2.7	2.8	2.5
2 <目標達成の評価とフィードバック>	2.5	2.6	2.4
3 <学習への動機づけと支援>	2.4	2.0	2.6
平均	2.5	2.5	2.5



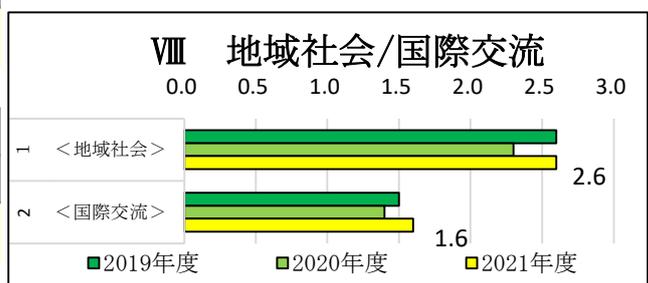
V 経営・管理過程

	2019年度	2020年度	2021年度
1 <設置者の意思・指針>	2.6	3.0	2.8
2 <組織体制>	2.6	2.8	2.5
3 <財政基盤>	2.3	2.8	2.7
4 <施設設備の整備>	2.5	2.6	2.3
5 <学校生活の支援>	2.6	2.5	2.8
6 <養成所に関する情報提供>	2.6	2.6	2.7
7 <養成所の運営計画と将来構想>	2.3	3.0	2.6
8 <自己点検・自己評価体制>	2.6	2.5	2.6
平均	2.5	2.7	2.6



VIII 地域社会／国際交流

	2019年度	2020年度	2021年度
1 <地域社会>	2.6	2.3	2.6
2 <国際交流>	1.5	1.4	1.6
平均	2.1	1.9	2.1



2021年度 重点課題に対する評価 准看護科

1. 全教職員が一丸となって新カリキュラムを構築し、2022年度からの開始（運用）できる準備を行う。

- ①定期的なカリキュラム検討会を開催し、役割を分担しながら資料の準備、申請資料の作成を行う。
- ②疑問点や不明な点は共有しながら、新しいカリキュラムを理解する。

この重点課題に対する教員の4段階評価では、全体として3.0であった。①に対しては2.8で、②に対しては2.6であり、まずまず達成できたと考える。2020年度からカリキュラム改正に向けた取り組みを開始し、2021年度は変更申請書を提出する年となったため、検討会を月に1回から週に1回と増やした。その結果、5月の初回提出、8月の中間提出、12月の最終提出を無事に終えることができ、2023年2月に変更承認の許可を得た。

検討会では、回を重ねるごとに教員からの意見が増え、自分の役割を意識しながら内容を理解する姿勢が見られるようになった。

2. 学生・教職員間で新型コロナウイルス感染症の対策を取りながら、教育活動が継続できるように取り組む。

- ①体調管理や行動記録の継続（長期休暇後は特に注意して確認する）
- ②手指消毒の徹底と換気、3密の避ける行動の徹底
- ③感染症発生の場合の速やかな対応（マニュアル作成、新しい情報の収集）

この重点課題に対する教員の4段階評価は3.0（① 3.0 ② 3.2 ③ 3.0）であり、3密を避ける等の対策は取れた。2020年度から引き続いて感染対策に取り組んできた結果、各学年に数名の感染者の発生はあったが、学内での感染拡大を防止できたことは高く評価できると考える。学内において2回の集団ワクチン接種の実施やPCR陽性者または濃厚接触者が発生した場合の対応に関しても「新型コロナ感染症対応シート」を作成して支障なく対応できたのではないかと考える。また定期的に行政からの通達内容を確認して本校における対応方法を見直し、対応の遅れがないようにした。

3. 学生の学習面（実習を含む）や学校生活における教育上の課題においては、教員間の連携を図り、問題解決や円滑な学校生活の環境づくりに取り組む。

この重点課題に対する教員の4段階評価は3.0であり、自己点検自己評価の項目「学生生活支援」の結果においても3段階評価で2.8であった。教員の反省に「カリキュラム改正の業務が多忙であったこともあり、学生一人一人への対応は十分にできなかった」とあった。しかし、卒業生アンケートにおいて「2年間を通して、社会の一員としての自覚がもてるようになった」や「時間厳守や周囲と協力し合うことができた」という意見が聞かれた。また、2021年度の退学者率を前年度と比すと、ここ数年10%を超えていたが3.5%減少し、まずまず達成できたと考える。

4. 福岡県准看護師試験全員合格の継続と進学率 70%を目指す。

福岡県の准看護師試験合格率は、前年度より 1%低下し 98.3%であった。本校における今年度卒業生の、1年次の低学年模試や2年次の全国模試（全3回）の平均的な結果では 210 校中 180 位と厳しい状況であった。これまで通り、資格試験対策講義及び試験やチューター制による個々の学生への支援を行った結果、12 年連続して全員合格が達成できた。また卒業生のうち、看護専門課程（2年課程）への進学希望者は全員進学でき、進学率においても前年度は 63.4%であったが 2021 年度は 71.4%と上昇し目標を達成することができた。

2022年度 重点課題 准看護科

1. 学生定員の充足を図り、教育財源の確保と教育環境を充実させる。
 - ①学校訪問を再開し、本校の強みを最大限にアピールする。
 - ②学生定員の8割を満たすことができる。
 - ③教職員が連携を図りながら、各役割や担当における教育活動を行い、問題解決や円滑な学校生活に取り組む。

2. 新カリキュラムによる教育活動への取り組みを行い、運用上の問題点や課題を共有しながら次年度へ向けた修正・改善に取り組む。
 - ①各役割・担当別に新カリキュラムの運用に際しての問題点や課題を発起し、教職員で情報共有を行う。
 - ②次年度に向けた修正・改善策を検討し、取り組む。

3. 新型コロナウイルス感染症対策の継続。
 - ①体調管理の継続と感染対策行動の徹底（手指消毒、換気、密を避ける行動）
 - ②感染症発生の場合の速やかな対応（情報収集、マニュアルの見直し）

4. 福岡県准看護師試験全員合格の継続と進学率70%を目指す。
 - ①チューター制による、個々の学生への学習支援
 - ②進学者のうち、本校看護科への進学率90%を目指す。